

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書8章16～18節＞

1 「ともし火」(16)は「神の言葉」(11)を指す。直前の箇所との繋がり。

この「ともし火のたとえ」は、すぐ前の「種まきのたとえ」の続きです。すなわち、「種まきのたとえ」はここまで読んで考える時に言いたいことが見えて来るたとえ話なのです。「ともし火」は「神の言葉」(11)を指しています。さらにそれはイエス様ご自身が語られる御言葉（福音）を指しています。その重要性が、隠して置いておかれることは決してない、回りを照らして明るくする「ともし火」にたとえて語られます。しかし、そんな重要なものがなぜすべての人に分からないのでしょうか？その答えをイエス様の次の言葉に聞き取ることができます。

2 「どう聞くべきかに注意しなさい」(18)の意味は？

イエス様は言われました、「**どう聞くべきかに注意しなさい**」(18)と。この言葉が直前の「種まきのたとえ話」と関係があることを示しています。この「種まきのたとえ」で注意して聞き取るべき点を一つ指摘しておきます。「**良い土地に落ちたのは**」(15)の「**良い土地**」とは、御言葉を聞く私たちの身の回りの環境を指すのではありません。私たち自身の聞き取り方を指しているのです。「**立派な善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たち（のこと）である**」(15)。確かに、聖書の御言葉をどのように聞くか、すなわち、福音的に聞き取る仕方を身に付けられるかどうかが大いなることなのです（今日の「日々の御言葉」参照）。「**持っている人**」と「**持っていない人**」の違いもこのことから生まれて来ます。

4 今、御言葉を掲げて「世の光」として生きる！

最後に一つ大事なことを。今日の箇所からは御言葉の大事さを教えられます。しかしイエス様はさらにその先を語られています。すなわち、主を信じた者が「**地の塩・世の光である。あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい**」(マタイ 5:13-16)と。しかしここでも「**どう聞くべきかに注意**」です。私たちの光は私たち自身の光ではなく、今日の箇所では教えられたともし火、神の御言葉が持つ光です。私たちが既に持っているこの光の素晴らしさを深く捉えて生きていくことが求められているのです！